

## ネパール現地報告 8

### メモ (主要のみ)

5月10日

午前中、教会へ。夕刻、現地旅行会社NEXラジュ社長、九州の旅行会社シェルパの阿南社長と今後の支援の在り方について情報交換。

5月11日

午前中トリプヴァン大学キルティプル校社会福祉学学科の学生約50名に、震災後の被災者への心のケアについて話をする。

その後、日本大使館、JICAへ。JICAに心のケア専門家派遣頂けるよう、お願いをする。→JICAに仲介頂き、現在現地赴任中、自衛隊精神科の宮崎医師と12日面談予定。

午後、ナビル銀行に集まり、12日近郊サクー周辺の村への物資支援の打ち合わせ、物資調達（支援隊に医療班として同行予定）。

アサンチョウクのパシュミナ店「よろしく店」のアニルさんより、村への支援金を頂く。

### 知り得た情報

・上記「よろしく店」アニルさんより

地震により工場は被害を受け、再開まで少なくとも1カ月、店は1週間前から再開するもほとんどお客さんが来ない。

・タメル日本食レストラン経営者より

タメルの商店、レストラン等はだいぶ再開。ただお客さんはいない。このままの状態が2カ月続けばタメルの約2割のお店が閉店するだろう。自分の店もこの状態が今秋まで続けば、閉店を検討せざるを得ない。

### 印象

・今地震で地元産業、特に観光業が大きなダメージを受けている。安全確保が第一だが、今秋からの繁忙期以降、訪問客が戻ってくるようにできるかがネパール復興の課題。

・ネパール製品の消費喚起、購入も、地元の方々の生活再建にたいする支援の一つだろう。

・震災支援のネパール人の有志ボランティアが増えている（中には仕事を休んででも）。